

令和 4 年 第 1 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和4年1月17日(月)

開会午後1時00分、閉会午後1時52分

II 場所

県民会館611号室

III 出席委員

1番 町野 利道

2番 山崎 弘一

3番 黒田 卓

4番 大西 ゆかり

5番 村上 美也子

教育長 荻布 佳子

IV 説明出席者

教育次長 清原 明宏

教育次長 坪池 宏

教育企画課長 松井 邦弘

生涯学習・文化財室長 吉田 学

教職員課長 福島 潔

県立学校課長 佐野 友昭

小中学校課長 水戸 英之

保健体育課長 橋本 隆

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和3年12月17日開催の令和3年第13回富山県教育委員会会議録
会議録閲覧

荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 協議事項

(1) 第3期教育振興基本計画(修正案)について

教育企画課長より説明した。

3 報告事項

(1) 令和3年3月県内中学校・義務教育学校卒業生進路状況調査及び令和3年3月県内高等学校卒業生
進路状況調査結果について

(2) 令和4年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について(令和3年10月末現在調査)

(3) 令和4年度富山県立学校入学者選抜における新型コロナウイルス感染症への対応について

県立学校課長より説明した。

(4) 公立幼稚園の廃止について

小中学校課長より説明した。

(5) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

保健体育課長より説明した。

4 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹より説明した。

5 議事

○報告事項

〔黒田委員〕

- ・高校への進学者数と卒業者の数値と差がある。それは何らかの形で途中でドロップアウトしたのだと思うが、特にこの1～2年に関して、コロナの影響を受けて家庭の事情がかなり変わったなどのケースも考えられると思うのだが、どういうふうな形でドロップアウトしているのか。どういうふうに動いているのかが気になった点だ。
- ・もう1つは幼稚園のことである。県が実施者ではないためなかなか難しいところだと思うが、幼保連携の認定こども園にどんどん変わっている。実態としてはかなり保育所的になっているところが増えているように思われる。県の幼児教育センター等で先生方の研修などやっていただいているが、幼児教育というものをしっかりとやってほしい。コロナになって特に3歳児から5歳児の保育をしっかりとできるようにうまくつないでいていただくとありがたい。文科省の管轄から厚労省の管轄に変わったり、厚労系の部分が強くなったりとすることもあって、なかなかこれも難しいところもあるとは思っている。

〔県立学校課長〕

- ・3年前の高等学校進学者数に比べ、高等学校卒業生数が減っていることについてのご指摘かと思う。追跡の形のデータがないところだが、高校へ入学したがなかなか続かなくて転学をする、あるいは中途退学といったケースもある。そういうものが反映されたものだと思っている。過去の中退調査等のデータからすると特段増加しているような状況ではないので、新型コロナウイルスの影響とはなかなか断定は難しいと思っている。

〔小中学校課長〕

- ・ご指摘のように公立幼稚園がどんどん減少傾向にあって、来年度以降も市町村によってはゼロになっていくような方向性のところもあるので、ご指摘いただいたことは今後大きな課題であると思っている。今年度、幼児教育施設の訪問研修センターを立ち上げて3年目を迎えたが、その施設数を来年度以降もさらに増やし、直接施設を訪問して指導・助言をさせていただく際に色々アドバイスしていきたいと思っている。訪問していただくアドバイザーの人数も多少充実を図っていきたいと考えている。そういうことを通して少しずつでも教育の質という部分でしっかりと統一的な対応を図れるように努めていきたいと思っている。黒田委員にはまたご協力をいただければと思っている。

〔大西委員〕

- ・長男の高校で、共通テスト直前の木曜日に同じクラスにコロナの陽性の生徒が出て金曜はクラスが休みになるということがあった。金曜日に保健所から連絡があった人はPCR検査を受けるよう連絡があり、親子ともどもドキドキしたが、連絡がなかったので共通テストを受けることができた。自分がそういう場面に直面してより一層思うのだが、一生懸命勉強している受検生や保護者の方々は大きな思いを抱いて受検に臨んでいる。色々なケースがあると思うので、できる限り受検生には平等な機会を与えていただきたいということ、混乱は最小限に抑えていただければいいようにお願いしたい。
- ・児童段階からの運動習慣作りについて、「みんなでチャレンジ3015」を進めているということだが、本当に素晴らしい取り組みだと思っている。私の子ども達も小学生の間は色々な取り組みを喜んでやっていた。しかしながら教育大綱のパブリックコメントでは「みんなでチャレンジ3015」の教職員の負担について言及されたものがかなりあったかと思う。そこにICTを取り入れたりすればいいのではないかという意見も併せてあったかと思う。PTAの仲間によると、必ずしも先生ではなく地域で管理しているところもあると聞いた。ばらつきがあるようだ。市町村にもよると思うが、なるべくなら教職員の先生方がチェックをしたりとか、促したりということで負担が少なくなるようにお願いしたい。中学生になると運動部に入る子と入らない子の二極化が進んでいるのをすごく感じている。運動習慣は成人する前に獲得しないとなかなか成人してからは続かないと思う。

〔県立学校課長〕

- ・今オミクロン株によって受検者それから保護者の皆様は本当に大変心配な日々を送っておられるかと思う。県立学校の入学者選抜においては、条件を満たす場合は濃厚接触者の受検を認めるということ、それから本検査を受けられない場合は追検査、さらに受けることができない場合は書類選考ということで受検機会の確

保に努めていきたいと考えている。また混乱等のないように、中学校や高等学校でも昨年説明会を実施し、手続き等を周知させていただいた。今後の状況を注視しながら、しっかりやっていきたいと思っている。

- ・3015というのは、各学校の担任の先生が集計して教育委員会の保健体育課に回答する。少し前まで、各学校の順位を付けるという形だったが、それだと学校の先生方の負担が大きいということで、実施することについては任意としている。保護者の方々がそれぞれパソコンからとれるよう、紙ベースからICT・パソコンベースに変えていこうと考えている。実際はもうエクセル形式にしているが、使いづらいということで、より使いやすい形に工夫しているところである。幼児期あるいは低学年の段階で運動を好きになる習慣をつけないと、大西委員がおっしゃった通り、中学生、特に女子の生徒については完全に運動について好き嫌いができている。その段階では若干遅いのではないかと教育委員会では考えていて、なるべく幼児・低学年の段階から運動習慣をつけられるような仕組みをうまく作れないかなと今色々考えているところだ。

〔教育長〕

- ・少しずつ改善をしていきたいということで、今後も検討していきたい。

〔町野委員〕

- ・高校卒業生の進路についてだが、それぞれの表の母数は同じか。

〔県立学校課長〕

- ・同じである。

〔村上委員〕

- ・教育委員会でも受検に向けてのオミクロン株の感染のことでピリピリしていると思うが、感染力が非常に強いことから、精一杯気をつけていても感染することはあるだろうと思っている。これから受検の大事な時期に、「誰かがなったせいで」など、色々なことが起こるかもしれないが、感染から戻ってきた子ども達には先生方の方から「よくなってよかったな」というような一声をかけていただきたいと思っている。本人たちは非常に心苦しく思っていると思うので宜しく願いたい。

〔山崎委員〕

- ・学校は学力を身につけさせるだけではなくて体力、身体づくりの面でも、体育の授業やスポーツなどを通して取り組んでいると思うが、そういう意味では体力や身体づくりにつながるには大きな意味があると思う。先ほど小学生については総合点で下がっており体力がやや低下しているという話があったが、検査種目の結果の合計点がやや低かったということをもって全体的に体力が低下しているとは思わない。ましてこれは前年の同一学年である5年生との比較である。同じ人たちが過去からどういう体力が身につけているのか、その後どのように体力がついているのかを見るには、中学2年の場合、3年前の平成30年の小学校5年の段階で男女どうだったのかということを対比してみる必要があるのではないかと思う。その得点でもって体力全体がしっかり測れるわけではないと思うが、一つの目安としては分かる。

もう一つ、中学校の方は持久走が組み込まれている関係で単純に総合点では小学校と比較することは出来ないと思うが、相対的な評価という意味から全国順位で見ると、中学2年生は3年前に比べると、かなり落ちてきている気がする。同様に、令和2年は実施していないので見ることはできないが、令和元年の運動能力測定と3年前と比較してみても順位としてかなり落ちている。ということは、どのように見たらいいのか。小学校から中学にかけての体力づくりに向けた働きかけ、あるいは指導・教育がうまくいっていないからこうなっているのではないかとも思えるのだが、その点どうか。

〔保健体育課長〕

- ・ご指摘の通り、小学校の時の順位と3年後の中学校2年生の順位は相対的に同じような傾向になっているので、確かに順位的には落ちてきているような形にはなっている。その点については、何故そうなっているのか勉強させていただきたいと思う。もしかしたら山崎委員がおっしゃったように、中学校では持久走が入っているので、このあたりの関係が影響しているのか。どうしてそんなに極端に順位が落ちているのか、分析をさせていただきたいと思う。

〔山崎委員〕

- ・これからの体力づくりに向けて取組まれていると思うが、今後さらにそのあたりを考えて指導していく必要があるのではないか。

〔教育長〕

- ・ ちょっと分析してみたいと思う。小学校のうちには 3015 などで割と全体的な体力向上の取組みがされているが、中学校に入ってから部活動をする子は頑張るが、そうでない子はやらないというような二極化が出てきているのかもしれない。持久力が富山県の子は弱いなのかもしれない。その辺を分析してみたいと思う。

午後 1 時 52 分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。